

春風を受け健脚を競う

第46回河田杯マラソン

陸上競技シーズンの幕開けを告げる第46回河田杯マラソン・大館北秋田ロードレース大会が4月19日、市役所本庁舎前をスタート・ゴール会場として開催されました。

同大会は、戦前から長距離ランナーとして全国的に知られた河田康雄さん（1909～1987）の遺志を継承し、次代を担う選手の育成などを目的に開催されているものです。

今年の大会には、小学生から一般まで市内外から約180人が参加、さわやかな春風の中で、気持ちのいい汗を流しながら健脚を競い合いました。



▲さわやかな春風の中、健脚を競った選手たち

子孫の代にきれいな桜を

阿仁河川公園で桜手入れ作業

北緯40度カントリーパーク（阿仁河川公園）で4月21日、「第19回さくら植樹祭」が行われ、阿仁ライオンズクラブなどの会員20人が追肥・清掃作業に汗を流しました。

この植樹祭は、「21世紀のこどもたちにきれいな桜を残そう」と始まったもので、結婚・出生・入学などを記念し、これまで約170本を植樹、毎年手入れを行っています。

昨年9月の豪雨で同公園が水に浸かる被害があった際も、手入れを続けてきた桜は流されることなく立派に育っています。

今年は開花が早く、見事に咲いた花を楽しみ成長を確認しながらの作業となりました。



▲追肥、清掃作業に汗を流した第19回さくら植樹祭

ごみを一掃 美しいまちに

全市一斉に春のクリーンアップ

市内の各地区で4月20日早朝、住民総参加によるクリーンアップ活動が行われました。

クリーンアップは、毎年春と秋の2回恒例として行われているもので、春は冬期間に捨てられたごみが雪消えとともに目立つようになるこの時期、全市一斉に実施されています。

今年は、6月15日に全国植樹祭が開催されることもあり、全国からの来訪者を気持ちよく迎えようという意識も高まっています。

参加した住民らは例年にまして心をこめ、1時間ほどにわたり道路沿いや河川敷、公園などのごみ拾い、どぶ上げなどに精を出しました。



▲早朝から精を出したクリーンアップ（写真は高村岱）

「森っち」の人形を寄贈

下杉の桜井さん、合川支所に

第59回全国植樹祭のシンボルマーク「森っち」の人形が合川支所の玄関に設置され、来庁者を出迎えています。

この「森っち」は、合川下杉の農業・桜井正一さんが、リサイクル品などを利用し、約1ヶ月かけて制作したものです。

人形は身長約120cmで両手で水の入った器を抱えている姿。両脇には、豊かな自然をイメージするブナと杉の枝が配置されています。

桜井さんは4月10日の贈呈式で、「地元開催の大イベントで何かできることはないかと考えたもの。来庁者や子どもたちに喜んでもらえたらうれしい」と述べていました。



▲鈴木合川支所長に「森っち」の人形を寄贈する桜井さん

美化で内陸線存続をアピール

阿仁中田地区住民が駅舎を清掃

阿仁中田地区の住民が、内陸線の存続をアピールしようと4月16日、駅舎清掃ボランティアを行いました。

昭和38年にできた萱草駅と笑内駅の待合室とホームは、老朽化が進んでいることから、本格的な観光シーズンの前に駅の景観を良くしようと実施されたものです。

清掃には、笑内、根子、伏影、萱草の4自治会で構成する、中田地区連絡協議会の総勢40人が参加。駅周辺の清掃のほか、駅舎壁の補修や手すりなどのペンキ塗りもしました。

参加者は内陸線存続を願いつつ、愛着のある駅舎をきれいに仕上げました。



▲駅舎は、地元住民の奉仕で美しくよみがえりました

街頭で安全運転を呼びかけ

合川南小学校交通安全推進隊

合川南小学校（松尾昭校長・児童43人）の交通安全推進隊が4月9日の早朝、県道川井・堂川線の摩当交差点付近で、ドライバーに安全運転を呼びかける街頭活動を行いました。

前日の任命式では、松尾校長から6年生7人に任命書が交付され、隊員に委嘱された6年生は「交通ルールを守り、事故に遭わないように努めます」と、交通安全を誓いました。

9日の街頭活動では、黄色のベレー帽と制服に身を包んだ推進隊が、ドライバーに交通安全の標語が書かれた手作りのしおりなどを手渡し、「安全運転をお願いします」と元気な声で呼びかけていました。



▲安全運転を呼びかける合川南小の交通安全推進隊